

# 第1章 大阪市生物多様性戦略の策定にあたって

位置付け

生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画

計画期間

2050年のめざすまちの姿を展望しつつ、計画期間は2020年度までの3年間

目標

《2050年までのめざすまちの姿》  
 「生物多様性の恵みを感じるまち」

《2020年度まで》

- ・「愛知目標」や「持続可能な開発目標(SDGs)」など世界の動きを踏まえた生物多様性の保全をめざします。
- ・市民・環境NGO/NPO・民間事業者・研究機関・行政とのパートナーシップの仕組みを形成します。
- ・生物多様性の意味を知っている市民の割合を50%以上にするとともに、自然を身近に感じる市民を増やします。

大阪市環境局環境施策課 岡本 充史

## 戦略の構成

第1章 大阪市生物多様性戦略の策定にあたって

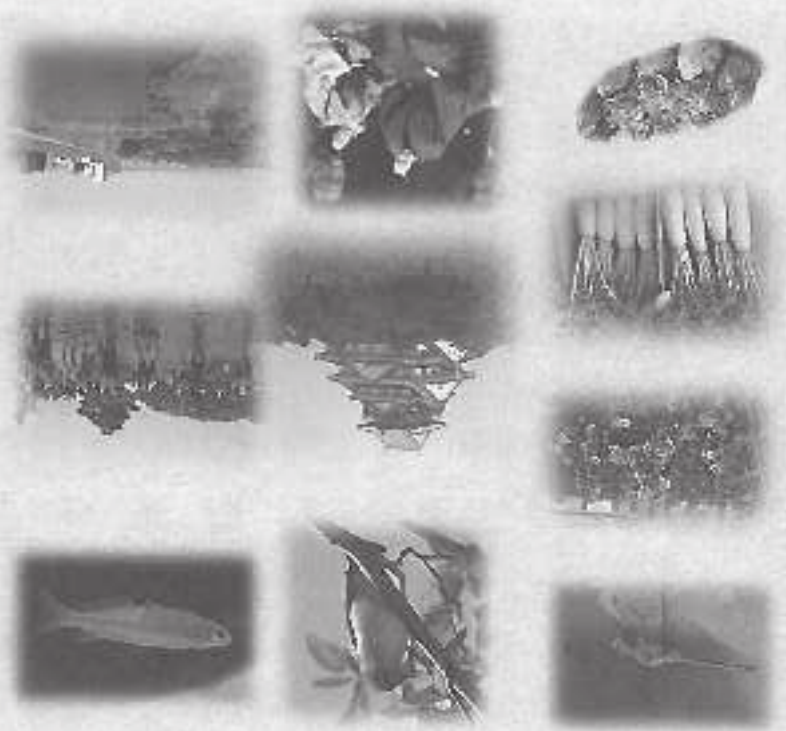
第2章 生物多様性とは

第3章 大阪市の生物多様性の現況

第4章 私たちの暮らしと生物多様性の関わり

第5章 目標達成に向けた取組み

第6章 大阪市生物多様性戦略の推進に向けて



## 第2章 生物多様性とは

生物多様性とは？

地球上の生き物たちの豊かな「個性」と「つながり」

3つのレベルでの多様性

生態系の多様性

森林、河川、干潟など、いろいろなタイプの自然がある。



深川河口の砂嘴

種の多様性

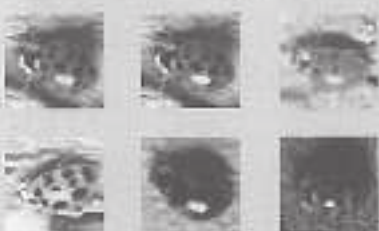
動植物や細菌等、いろいろな生きものがいる。



チヨウジボ

遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持つため、形や模様等の個性がある。



子猫の目

写真・中巻一

4つの恵み

私たちの豊かな暮らし

供給サービス

私たちが生きていく上で必要不可欠な物、衣類、燃料等を提供するはたらき



毛織物

調整サービス

森林による土砂崩れ防止、洪水防止等、環境を制御し安定させるはたらき



文化的サービス

文化面や精神面において私たちの生活を心豊かで楽しいものにすることはたらき



空の豊か

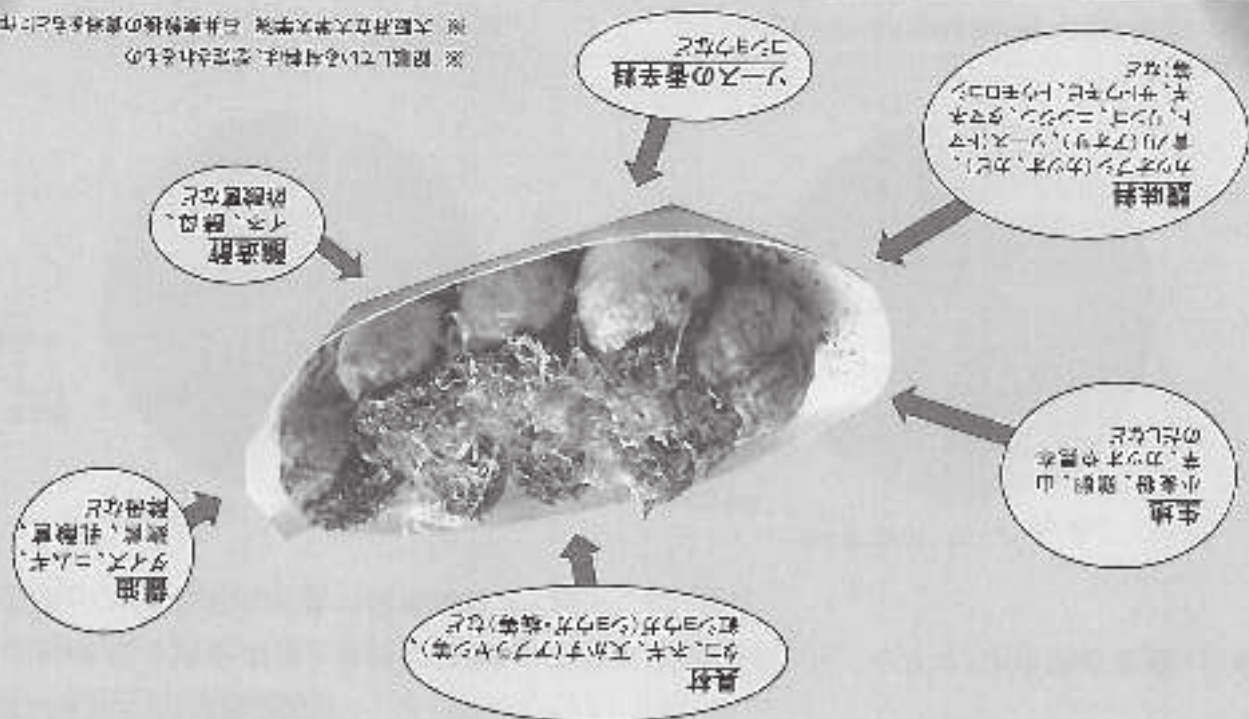
基盤サービス

光合成による酸素供給や土壌の形成等、生命が生存する基盤を提供するはたらき



## 生物多様性と食のつながり

大数名物「たこ焼き」は、「世界の生物多様性の恵み」なくして、食べることができません。タコはモロッコやメキシコ等から、小麦はアメリカ、カナダ、オーストラリア等から輸入されています。



4

※ 記載している材料は、想定されるもの  
※ 大阪府立大学大学院 白井美穂教授の資料をもとに作成

## 4つの生物多様性の危機

### 第1の危機

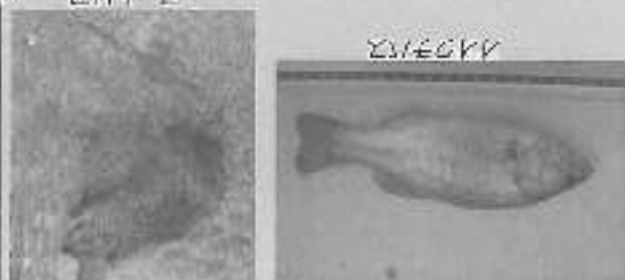
開発等人間活動による危機



森林伐採

### 第3の危機

人間により持ち込まれたものによる危機



### 第2の危機

自然に対する働きかけの縮小による危機



手入れされず、竹が侵入した人工林

### 第4の危機

地球環境の変化による危機



米河の衰退(アスカ・ムーア河)

5

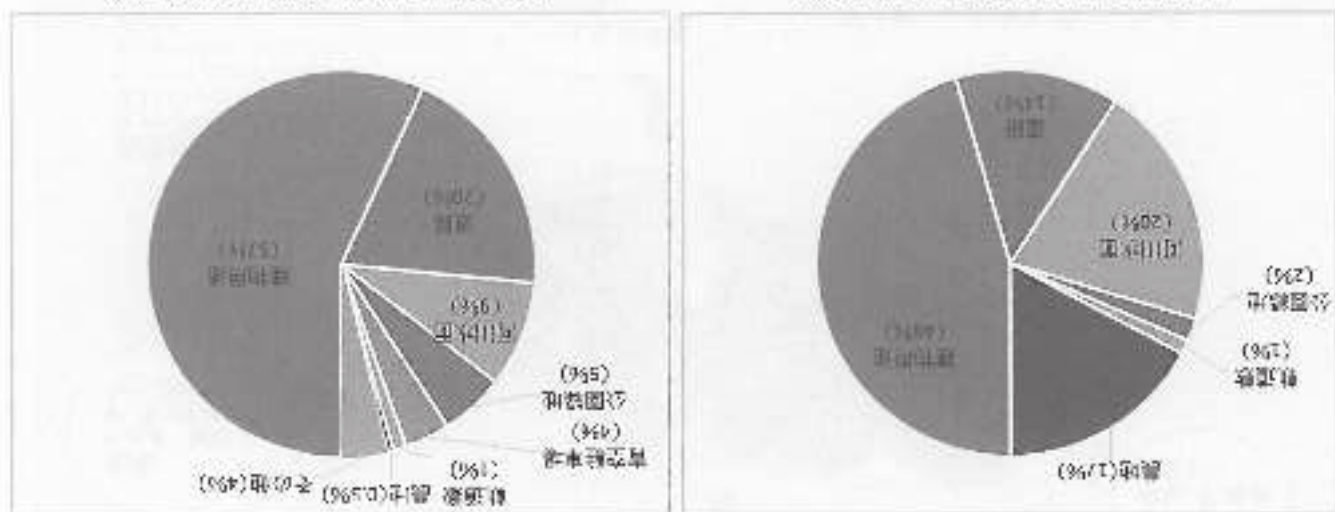


# 第3章 大阪市の生物多様性の現況

## 1. 大阪市の立地と自然環境

### 土地利用の変遷

約50年間で建物用途と道路が増加し、市街化が進みました。一方で、生き物の生息・生育空間とならざる河川水面や農地は大きく減少しました。



### 市内の貴重な自然

ほぼ全域が市街化された大阪市にも、淀川フンド群やまちなかの社寺林など大切な自然が残されています。



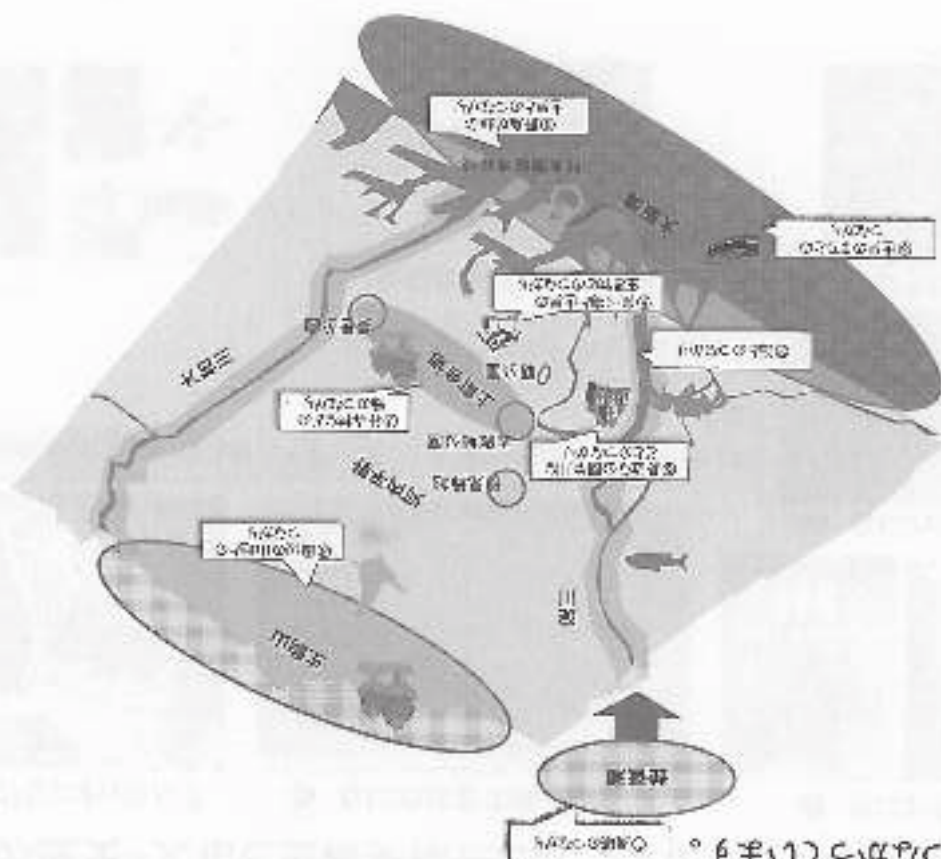
### 新たな生息・生育空間

近年の都市整備により、屋上緑化など新たな生息・生育空間が創り出されています。



## 周辺エリア・世界とのつながり

大阪市内の自然環境は、周辺の琵琶湖や生駒山、大阪湾につながっており、海を通じて世界にもつながっています。



## 2. 大阪市内の生き物の現況

### 市内の希少な生き物

・大阪市内で確認されている生き物は合計約4500種  
 ・大阪府レッドリスト2014において絶滅危惧(Ⅰ類及びⅡ類)に分類されている生き物は合計150種

### 維管束植物

(絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類：40種)



コフスガ  
絶滅危惧Ⅰ類

### 昆虫類

(絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類：30種)



ヒヌイトソボ  
絶滅危惧Ⅰ類

### 鳥類

(絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類：32種)



コアササシ  
絶滅危惧Ⅰ類

### 魚類

(絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類：19種)

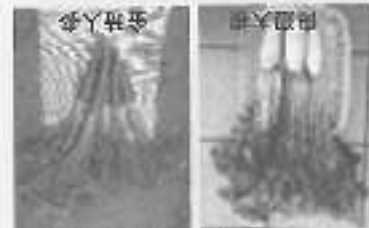


ミナミメダカ  
絶滅危惧Ⅱ類



## 1. 大阪の歴史・文化と生物多様性とのつながり

- なんでなにわなん？
- なにわは食の発信地
- なにわ伝統野菜



● なにわの川の幸

古代～中世：海を隔ち台地に誕生した都

近世：日本中の生き物に変えられた文化

現代：世界の資源を消費する時代へ

● そと今…



● 大阪は東洋のマンチエスター

● クジラが支える文楽



文楽立文楽劇場

## 2. 大阪市内の生物多様性関連施設等

《研究機関》

自然史博物館



《展示施設》

天王寺動物園



海遊館



《体験学習施設》

自然体験観察園

(花博記念公園鶴見緑地内)



住吉大社

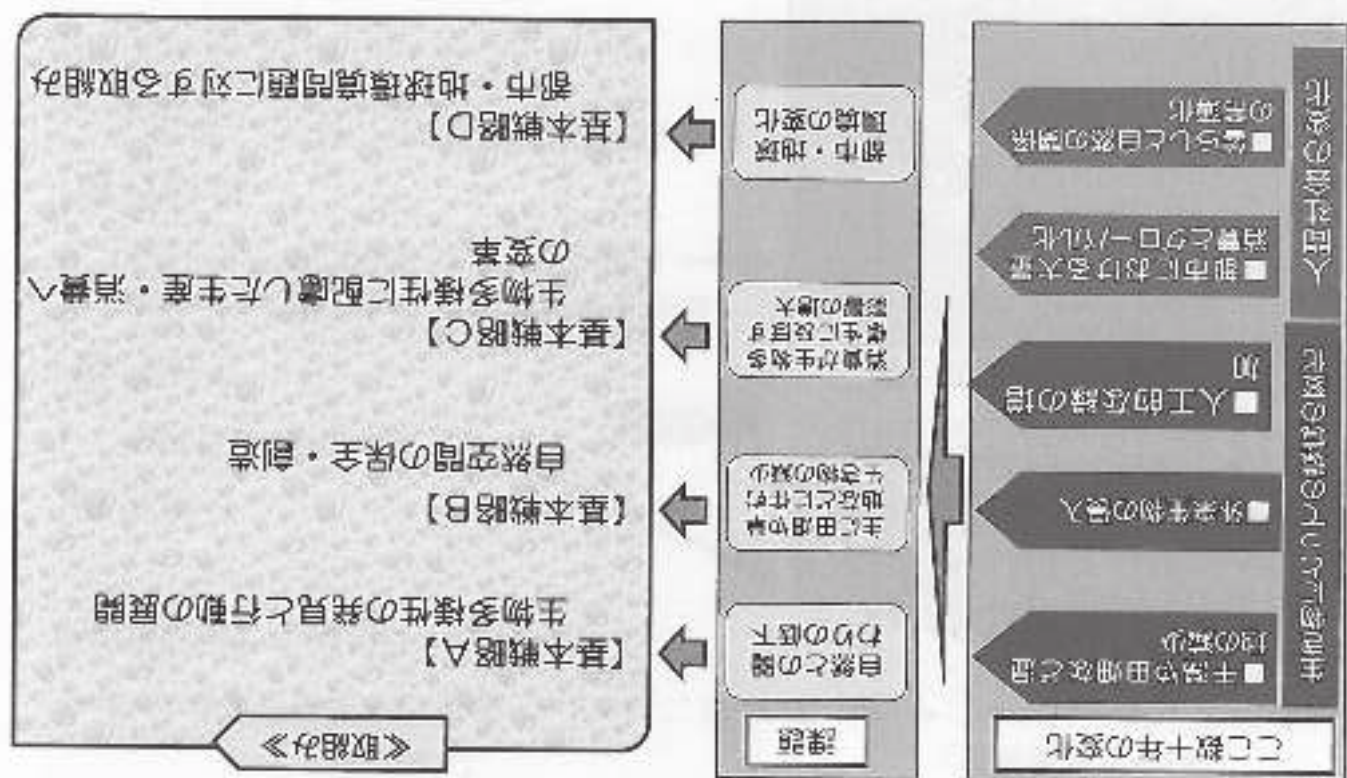


《自然と触れ合える施設》

新梅田シティ 新・里山







【基本戦略A】生物多様性の発見と行動の展開



ねらい

子どもたちを中心に身近なところで自然体験や生き物を発見する取組みを進めることにより、生物多様性に関する意識を高め、環境や生き物の多様性を守る行動へとつなげます。

■方針Ⅰ

身近なところでの生き物・植物の発見

■方針Ⅱ

自然体験を通じ、身近な都市の魅力としての気付きを促す取組み

■方針Ⅲ

環境教育・啓発



【基本戦略B】自然空間の保全・創造

市場での自然空間を保全・創造するとともに、広域的視点を持った取り組みを進めます。

ねらい

■方針Ⅰ

生物多様性の保全

■方針Ⅱ

生き物の生息・生育空間である生態系

ネットワークの拠点(エリア)の創出

■方針Ⅲ

生態系ネットワークの形成と広域連携の

取り組み



生物多様性ホットスポット

(野島園臨港緑地)



屋上庭園 (なんばパークス)



【基本戦略C】生物多様性に配慮した生産・消費への変革

一大消費地としてのポテンシャルを活かし、国外も含めた他地域の生物多様性に好影響を与える消費へと変え、それにより生産活動も変えていきます。

ねらい

■方針Ⅰ

暮らしと生物多様性の関わりの発信

■方針Ⅱ

民間事業者の生物多様性の取り組みの

促進

■方針Ⅲ

生物多様性に配慮した生活への変革



なにわ伝統野菜



食品ロス：手つかずに捨てられた食品





ねらい

大都市・大阪市の生物多様性の保全を推進するため、ヒートアイランド現象や環境汚染などの都市環境問題に取り組むとともに、市民の消費活動を支えている世界中の生物多様性に影響を与える地球温暖化に対しても、取り組みを進めます。

- 方針Ⅰ 都市環境問題に対する取り組み
- 方針Ⅱ 地球温暖化に対する取り組み
- 方針Ⅲ 国際貢献



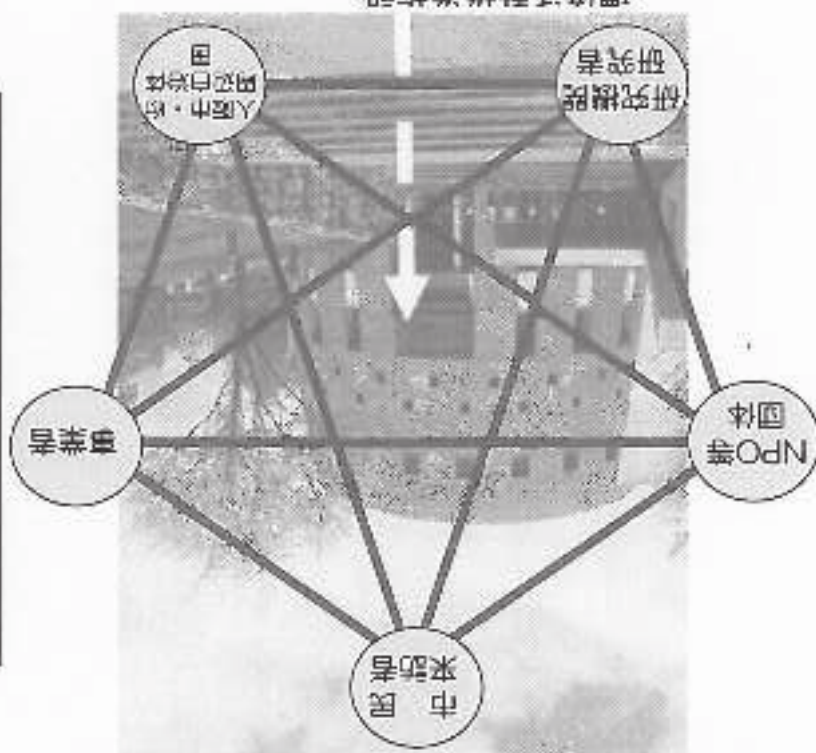
太陽光発電設備の導入（ヨコヅナビル）



ホーチミンにおける主な取り組み

第6章 大阪市生物多様性戦略の推進に向けて

《様々な主体との連携イメージ》



環境活動推進施設  
(愛称「ないわECOスクエア」)

生物多様性に関する取り組み

生物多様性に関する取り組みの推進  
は、市民・市民団体・企業・NPO等との連携による



